

真

物





山まゝのり末やく宮路乃

氣へまゝぞ 是ハ三弦登りわ

ゆゑなす傍よりいふ五弦といふこ

松島ひらけえなをいふ人程よ

このたひわりのこち松崎ひら

ソテミへ電ゑん 幾瀬波屋の

登浦乃川くは七夕のちうわ



まほしき一をあるは乃  
ぞめり外の前をる梓明下風の  
なをにのえ月乃ふりやみは  
おろわき城きさとの心か  
急るる是冬もやと野國を能  
所はほふる人ほ所より痛を  
かきやとなひ乃至みより

詞

えちうきはく船橋ははの世  
うき世にあり生る海花  
もて何うもえみうの葉の浮  
りふ猶敷うへてぬがきほふ  
堀江乃川のき那きちふらん  
ささめぬあき浪乃浮世はぬ  
ふのさびし神うもたる心な



あゝた物を古り流り流く  
思ひを流さるのよ能くひ  
候よ生れさるく心ようけは  
もも力に生れ乃海をわらう  
つき舟物を流りくや二河の  
流もそあるなう解い十乃  
木か一の物を流さるや

しり

あゝあ俗物の物よへるは海

しり

うみりさ俗物の物よへる

橋建立めく流さるくも

しり

やううちうくは伝

あかえぬ物かかなる出家

あゝあもそ心さるあはま

あゝあもそ心さるあはま



入て清通里とく <sup>早</sup>いめは

まいつわは <sup>三</sup>あきさくこのりーを

い清乃は字ふわまたと飛ふは

りー <sup>三</sup>あきさく <sup>三</sup>萬葉集の歌

あきまの依野乃あなはし

とまの歌 <sup>三</sup>あきまの歌の心を

ー <sup>三</sup>あきまの歌 <sup>三</sup>あきまの歌

ー <sup>三</sup>あきまの歌 <sup>三</sup>あきまの歌

ー <sup>三</sup>あきまの歌 <sup>三</sup>あきまの歌

ー <sup>三</sup>あきまの歌 <sup>三</sup>あきまの歌

ー <sup>三</sup>あきまの歌 <sup>三</sup>あきまの歌

ー <sup>三</sup>あきまの歌 <sup>三</sup>あきまの歌

ー <sup>三</sup>あきまの歌 <sup>三</sup>あきまの歌

ー <sup>三</sup>あきまの歌 <sup>三</sup>あきまの歌

ー <sup>三</sup>あきまの歌 <sup>三</sup>あきまの歌



あわやー 舟橋乃をたけん  
其ためり 珠文の舟山はの

橋をたわー 舟山はの

山はの 舟山はの

橋をたわー 舟山はの

争いたまひる 舟山はの

葛城やの 舟山はの

三十一

一言葉もや 舟山はの

度も 舟山はの

うけ 舟山はの

きく 舟山はの

先り 舟山はの



あゝいふやうに  
さうなうなりき  
りるの月子長閑ぶ水の舟橋よ  
ぞとて柱もつゆまーやほり  
こはくをほくとまたも人山は  
ともろ冬回一必乃くもろ  
わらわの夕暮は袖打りひそ  
に通るあり、藤巻のはもたかな

河風の都小寄渡を舟橋乃法は  
往來の道行く里妙く山伏者  
めくわ妙ふ大渡をを遊らるる  
心清くへゆきをたものふとき

ちよく萬葉集の哥よ東詠乃  
 依壁のみ栢とるまななりみ  
 なりと二流なりとも秋なるは



月さ、幸説くくう 三言 せん

うね、付て物後乃るあつてけり

さうをいふあり 物後 者此所、位

くは老也いま、あく、神はる

川を隔てけり、げね橋をたちと

しうと、ぬく通ひりあよ、二親

けりを流くつとひ橋のつこを

とわちなりけり、けりはけりあ、い

ちうひ、けりきつ、ねり、橋乃

上よりわ、けりも、落て、甘用、い

か、上あ、二れ、二い、二国、二果、二とい、二ひ、二き、二候

三、二き、二い、二沉、二果、二つ、二お、二き、二大、二お、二き、二乃

三、二お、二き、二ら、二き、二て、二ほ、二い、二世、二も、二な、二い、二

若、二い、二え、二の、二海、二う、二あ、二め、二川、二橋、二や



下を  
碧石をうけ  
も沈みもけりて魂ハ  
力哉をす心こころの鬼と成りりる  
がを恋程乃のけを歌の  
思ひよこ神起く舟橋も古き  
物しるまぢとけ方の上あわ  
りたといふきひけ人 夕月

やま屋くこ 舟を霞の空も  
うきく 雲となまぬとあは  
中乃んちもちのけり橋と  
ええーも中起ぬ爰ハさき  
東路のぞり 船橋とまを  
うきくひけけふ昔の空も  
まう秋はなわたりわく



あかめー法をあゝぬるく  
三寶加持のりひゝをされ罪も  
消ぬつき清乃力りゝ秋さく  
いり老ち難や後ゝ三き  
沈り力り時や清のちり  
永極の浮ふ方となふ難さ  
後上  
行老ぬるをば安物の

故ゝもわほいゝも極柱乃  
おもた若患をゝ男ちゝん泛海  
あゆな女海王川水万さわ  
なはるゝもくふ海連や  
帰連あゝ波のちりを裁く  
磐石のくもききゝ見たる人  
浅まーや見えぬ男老女若乃



初力を交うやうな族なうと  
底のみくそとなわーも氣  
ん老る力族佛あるまゝを  
痛りーやとこおぬの業深さ  
ぞ物心をうわひそなをく  
者をききけー好く何るも  
懺悔は罪乃雲消て真如の月も

出にあり 五後の露乃晴れき  
づかの燕乃一時都蝶の起めの  
るりふきよづえく有様みえ  
中をききけーやとこおぬの業深さ  
なうとたえおるはと皮つき  
格のとたえおるはと皮つき  
さう浪のうらやとよ







だん一そくはひもあふぬ  
う成執心のホもなけり  
どもよ三き河橋のり一柱よ  
た富もそ成就乃き一あり  
かりも様なく生る染染の安執  
歌ぬの志鬼となけりおとを  
せり若患も沈没をり老の法味

ぐらふり一もふ法方乃玉  
格のまめ法方乃玉け一のま  
つあ方よりあわみきあく







